

# 「抑圧せず主体性を」

## 県ハンド協研修 島沢氏が講演

県ハンドボール協会(宮城靖会長)は20日、宜野湾市の宜野湾市民会館で「スポーツインテグリティ研修」を開いた。講師のジャーナリスト・スポーツ育成アドバイザーの島沢優子氏が「子どもを伸ばす親の条件」と題して講演し、「目指すビジョンを共有し、保護者と指導者が一枚岩になっているチームが最も成長率が高い」とした上で「抑圧ばかりでは子どもたちの意欲はつぶれる。子どもを認めて、考えを問いつけ、



「指導者、保護者の意識の革新も必要だ」と話す島沢優子氏＝20日、宜野湾市の宜野湾市民会館

摘。体罰などの指導で才能を十分に伸ばせなかった事例が後を絶たないとした上で「保護者も変わらなくてはならない。『勝った負けただけ』ではなく、子どもたちの課題にしっかりと向き合うことが大切だ」と強調した。

また、子どもの試合の応援に熱が入り過ぎた余り、怒声を浴びるなどして子どもたちを萎縮させてしまう海外の啓発ビデオを紹介し、「ミスをなじられたり、帰りの車内で怒られたりすること子どもたちはどういう気持ちになるのか一度考えてほしい」と呼び掛けた。

その上で、これまで取材してきたトップアスリートについて「9割の保護者は子どもの自主性を尊重し、『あなたの考えはどうなの?』という問い掛けをしてきた」と説明。「子どもたちを信頼し、応援しつつ、干渉せず任せることで自主性が育まれる」と話した。

(松堂秀樹)